

様式 - 1

事業地区・箇所別概要(1)

平成31年度 当初予算 公共事業評価システム 個別サマリーシート(新規事業)

1 事業の基本データ

計画事業名	事業名	地区・箇所・路線名		
	自然災害防止	檜の谷		
事業担当課	担当課	担当班	電話番号	
	治山林道課	治山班	059-224-2575	
事業施工場所	地域(市部・郡部/一般・過疎・準過疎)		市町字名	
	松阪	郡部	過疎	大台町 下楠字檜の谷
事務事業名	県単治山事業費			
基本事業名	治山対策の推進			
公共事業評価システムにおける分野名	山林の保全			

2 事業計画の概要

事業の目的			
当該渓流は平成29年度の台風災害により荒廃した渓流より土砂が流下して、道路及び鉄道に被害を与えた。さらに、直下には国道・人家も存在することから、被害を防止すべく荒廃した渓流内に谷止工を設置すると共に流末の道路施設まで流路工を整備いたしたい。			
事業計画の概要			
谷止工	1.0基	事業着工	2020年度
流路工	25.6m	事業完了	2020年度
		供用開始	2021年度
		B/C 評価期間	30年
		全体計画事業費(億円)	0.390
		全体計画工期(年数)	2年

3 経済効率性評価(費用便益分析)

計算テーブル	便益分類	便益(億円)	
テーブル1	自然防御機能維持	自然防御機能維持便益	水源の涵養便益 土砂流出等の災害防止便益
			0.01
テーブル2	土砂流出等の災害防止 洪水等の災害防止 高潮・波浪・浸食等の災害防止	災害防御機能拡充便益	人的被害軽減便益 資産被害軽減便益 営業停止損失軽減便益 応急対策経費節減便益
			2.94
テーブル3	アクセス環境の向上	アクセス機能向上便益 交通事故減少便益 環境改善便益 待避・避難機能向上便益 快適性向上便益 交通遮断防止便益	アクセス時間短縮便益 アクセス経費節減便益 人的被害軽減便益 資産被害軽減便益 応急対策経費節減便益 事故渋滞便益 大気質汚染抑制便益 騒音被害軽減便益 待避・避難時間削減便益 待避・避難経費削減便益 歩行者便益 アクセス時間増加抑制便益 アクセス経費増加抑制便益
テーブル4	生活環境の向上	水質汚染抑制便益 家畜排泄物処理便益 大気質浄化・騒音遮断等便益	水質汚染抑制便益 家畜排泄物処理便益 大気質浄化便益 騒音遮断・飛砂等軽減便益
テーブル5	レク機能等の提供	余暇空間創出便益	余暇空間創出便益
テーブル6	生産性の向上	生産効率向上便益 生産基盤拡充便益	労働時間短縮便益 生産経費削減便益 単位生産量増便益 生産規模・機会増便益 耕作維持・利水便益
テーブル7	その他	土地創出便益 更新便益 廃用損失	土地創出便益 更新便益 廃用損失
粗便益 (現在価値合計) : B' (億円)			2.94
テーブル8	環境評価	自然環境 景観 文化 快適性 安全・安心	WTP × 受益世帯数 WTP × 受益世帯数 WTP × 受益世帯数 WTP × 受益世帯数 WTP × 受益世帯数
粗便益 (現在価値合計) : E (億円)			0.01
粗便益 (現在価値合計) : < B' + E > (億円)			2.95
地域	松阪	に対応した地域係数	1.3
便益(現在価値合計) : B (億円)		((B' + E) × 地域係数)	3.83
費用(現在価値合計) : C (億円) (費用計算テーブルより)			0.36
費用便益比 : B/C			10.63

費用便益分析に関する特記事項

このシートの費用便益値は、三重県方式により算出したものであり、国の定めた算出手法とは異なります。

様式 - 2

事業地区・箇所別概要 (2)

平成31年度 当初予算 公共事業評価システム 個別サマリーシート(新規事業)

1 事業の基本データ

計画事業名	事業名	地区・箇所・路線名	
	自然災害防止	檜の谷	
事業担当課	担当課	担当班	電話番号
	治山林道課	治山班	059-224-2575
事業施工場所	地域(市部・郡部/一般・過疎・準過疎)		市町字名
	松阪	郡部 過疎	大台町 下楠字檜の谷

2 政策的重要度評価 (個別評価)

(a) 戦略性

【全分野共通要件】

1	
2	みえ県民カビジョンを補完する個別計画に位置づけられている事業
3	

(具体的な内容の記述 < 上記の補足事項 >)

三重の森林づくり基本計画に位置づけられた事業である。

(b) 緊急性

【当該事業分野の事項】

	山地災害危険区域等、溪流、山腹、森林等の現況からみて土砂災害の発生する危険性の高い箇所、人家の安全確保のために早期に整備が必要な事業

(具体的な内容の記述 < 上記の補足事項 >)

平成29年度の台風災害時にも土砂が流出し、道路敷きと鉄道敷きに土砂が堆積し通行の妨げとなっており、また、溪岸部の浸食も見られることから、今後も同様の台風災害が来れば、再び被害が発生する恐れがある。

(c) 熟 度

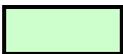
【全分野共通要件】

1	
2	
3	協力体制があり、整備に対して熱心な要望がある事業

(具体的な内容の記述 < 上記の補足事項 >)

地元住民により事業の要望から用地承諾(地元以外の方を含む)まですべてを行っており、整備について熱意がある。

【評価結果 (優先度判定の結果)】



優先度区分について

優先度	: 事業進捗を図り、早期事業効果の発現に努める継続事業
優先度	: 地域補正後の経済効率性が分野別の基準以上で、熟度が高い新規事業
優先度	: 地域補正後の経済効率性が分野別の基準未満で、熟度が高く、緊急性や戦略性が高い新規事業
優先度	: 優先度 以外の新規事業
優先度	: 中止する事業